

# 京都府産業教育審議会提言の概要

## －府立高校における農業教育の在り方について－

### 1 府立高校における農業教育の現状と課題

- ・20年近く学科改編が行われていないため、学習内容が設置当初から変化してきており、学科の名称からは学習内容が伝わりにくくなってきている
- ・志願できる地域が限られている学科があり、生徒が希望しても居住地によって志願できない学科がある。
- ・就職する生徒のうち、約3分の2が農業と関連のない産業へ就職している。
- ・施設・設備の陳腐化、老朽化により最先端の学習が行えない状況となっている。
- ・分校については、設置当初の目的とは、異なる役割を果たしている側面がある。
- ・ベテラン教職員の大量退職が見込まれる中、ベテラン教職員から若手教職員への技術力・指導力の継承、若手教職員の資質向上が必要である。

### 2 求められる農業教育の在り方

- ・将来の農業の担い手となる人材の育成をめざし、専門科目だけではなく、普通科目の基礎・基本も重視しながら、生産から流通までの幅広い学習を行うことが必要である。
- ・6次産業化を意識した教育を行うに当たり、学校・学科間で連携した取組が必要である。
- ・栽培や加工等、各学校の得意分野を活かし、地域、企業、大学等と連携した取組を充実させる必要がある。
- ・生徒が各学科の特色を踏まえ、全ての農業科の中から進学先を選択できるよう、通学区域を見直す必要がある。
- ・現在、約6割の生徒が進学しており、進学を希望する生徒を対象とするコースの設定や進学に対応する教育課程の編成等、進学への対応が必要である。
- ・就農や関連産業への就職を促進するため、農林行政や農林団体等と連携した支援体制等について検討すべきである。
- ・遠隔地から通学する生徒が学習や部活動に集中できるよう寮や通学を支援するためのスクールバスが必要である。

### 3 地域の特性を活かした農業高校の在り方について

- ・地域、企業、関連団体、行政機関等と連携し、地域の人材や資源を活用しながら、地域の活性化につながる取組をさらに進めるべきである。
- ・耕作放棄地の拡大など地域の課題について理解を深め、地域の中で学校が果たせる役割を検討することも必要である。
- ・南丹以北の地域については、今後の生徒数の動向も見据え、各学校や学科の果たすべき役割や機能分担、適正な配置を検討すべきである。
- ・分校は、設置当初とは異なる役割を果たしている側面があるため、今後の生徒数の動向も見据え、その在り方について、京都フレックス学園構想等も含め幅広い視点から検討すべきである。